

昭和40年度  
(1965)  
第5回大会

男子優勝 札幌南

女子優勝 小樽千秋

( 現 小樽工業 )

【 専門委員長 寸評 】

札幌地区だけで行われていたこの大会は、今年度から新たに旭川が加わって参加校も増した。個人戦においては旭川が単複共に優勝するという偉業を成就し、大いに新風を吹き込んだ。来年度からは札幌、樽、旭の鼎立戦が予想され、大いに期待をしている。

女子も年々技術が向上し、大いに期待できるようになった。更に試合数を多くし、全国大会への足掛かりをつくりたいものである。

## 優勝のよろこび

男子 札幌南高等学校

6月27日、この日は、私たち南校硬式庭球部員にとっては忘れられない日です。なぜなら、庭球部員の日頃の悲願であった5年連続全道大会優勝を勝ち得た日だからです。しかし、ここまでくるにはなみだいての努力ではありませんでした。普通の日には(先輩の指導のもとに)ボールが見えなくなるまで部員が一つとなって練習したものです。また日曜日という朝5時頃起き出して中島のコートにいったものです。これというのは学校にコートがないという悩みでしょう。

朝早く起きて練習するのは、凄くつらいものです。学校にコートさえあればいつもクラブ員全員が、毎日考えていることです。早く学校にコートをつくってほしいものです。

また全道大会で優勝が決定してからも、全国大会で勝つという目標を練習に練習を重ねました。練習をつんだにもかかわらず1回戦は、群馬県太田高校に2対1で勝ちました。2回戦は、名門静岡高校に0対3で敗れましたが、私達は本道代表として、精一杯努力したと思っております。

最後に、女子が決勝で敗れ男女いっしょに全国大会にいけなかったのが、ただ一つの心残りです。

# 優勝のよろこび

女子 小樽緑陵高等学校 (現 小樽商業)

快晴の空の下、6月27日より、全道高校庭球選手権大会が始まった。私たちは、2年前のたった3人で出た開会式を思い出して、自慢の赤いユニフォームを着て開会式に臨んだ。

私達は、対西高戦3-0、対東高戦2-1、で順調に対南高の決勝リーグに進んだが、これに勝てたら全国出場とあって、やはり試合中には、緊張とあせりが見られた。経験の浅いダブルスは敗れたが、S2の北村が敢闘し、強敵も、緊張のせいか走らず、あまり球を返さなかったのが、容易に第1セットを取った。2セット目、心機一転した対戦相手は非常に走り、よく返してきた。が、結局3ゲームを取られただけで勝つことができた。この勝因は、上背のある彼女の、バックコートの狭いのを計算に入れたロビングと気長なゲーム運び、そしてよく走った点にあると思う。問題はS1の私にあった。この試合で優勝か否かが決まるのだと思うと、さすがに緊張せざるを得なかった。その上、第1セットを9-7で取られ、2セット目もシーソーゲームであったがどうにか切り抜けて12-10でやっと取ることができた。ファイナルになると相手も疲れを見せて足が動かず、ミスが重なり、やっと6-0で取った長い試合であった。

この瞬間のために、朝練習をし、夜暗くまで、自分にも、部員にも、きびしい練習を強いてきたのだ。

クラブ創立2年目で、自分達の力で、この名誉を得たのだと思うと、止めようにも止まらない涙が後から後から流れて仕方がなかった。

私の勝因はただ一生懸命やったことだけである。このような長い試合になると自分の精神力との戦いになる。この経験を通して、より大きな人間になりたいと思う。

一生忘れることのない感激と喜びを味わうことができた。同時に、この名誉を守るためにも、今まで以上に練習し、私達を見守って下さった顧問の久保木先生らの御期待に応えようと心に誓っている。

(小樽千秋高校 宝福則子)

## 【全国大会報告】

男子代表校札幌南高等学校は本年は全道大会で五年連続優勝の余勢を駆って長駆南国別府市において開催された全国大会に2年生のみで編成されたチームであるが出場し第1回戦で関東の雄群馬県代表太田高校を2-1で破る偉業を樹てた。なお同校は昭和33年に四国代表松山高校を破って2回戦に進出して以来2度目の快事である。本年も2回戦では東海地方代表の静岡高校に敗れ、3回戦出場の夢破れた。

個人戦は旭川北高校中村、杉村、小樽潮陵松井、札幌南中村、林、香山出場するも何れも1回戦敗退す。

女子代表小樽千秋高校。酷熱の別府についたのが7月30日昼過ぎ、山手の藤沢旅館に旅装を解き、休む間もおしんで先ずトレーニング。

翌31日、午前中は練習、午後3時から大分県営陸上競技場で開会式。年々規模は壮

大になってくるが、式の途中熱さに倒れる選手数名あり。夕刻別府に帰って夕食の間もなく各校監督打ち合わせ会。

8月1日、いよいよ8時から別府商コートで女子団体始まる。1回戦で長崎女子商に惜敗。

8月3日、午後6時から別府中央公民館で個人戦開始式。

8月4日、午前9時から別府商コートで個人戦女子複1回戦。宝福・北村組(小樽千秋) 梅沢・梅沢組(札幌静修)の健闘空し。

8月5日、午前9時から個人戦女子単1回戦。宝福則子(小樽千秋)、鈴木美樹子(札幌南)、林静子(小樽緑陵)の3選手出場。最後の力を振り絞って善戦。われに利あらず。

以上の戦績を振り返って、またたく間に過ぎた1週間ではありましたが、さまざまな問題を反省させられます。

- ① 基礎体力に欠けていること。
- ② 打球の正確さが足りないこと。
- ③ 劣勢に追い込まれた時のここ一番の奮発心が足りないこと。等々。

日程の後半に九州を襲った台風のため、船の欠航や汽車の不通で難渋しましたが、別府市の町ぐるみの歓待に感謝しつつ、捲土重来を期して帰途につきました。なお、8月4日夜に開催された全国委員会で、今年から試合中ベンチコーチをコートに入れないこととし、またボールボーイも必要最小限にすることに申し合わせができました。

従って、今後各都道府県予選でもその方向で試合を実施しなければならないことを付記します。

(千秋高校 監督 久保木 正一)

#### 【第20回国体寸評】

昨年に比べ試合内容は充実していたがプレーが荒いように思われる。サービスは割合確実にってきているがスピード不足である。レシーブは雑になることがあり、全般についての一番の欠点は足腰の弱さが目立つ。冬季間、足を鍛え、そして相手の打球に如何に早く追いつくか、弛まぬ努力を続けてほしい。

高校女子も男子と同じく足がない。その結果相手に走らされ、コーナーをつかれ、短いボールが来ると殆んど返球できない。ボールを相手コートに返球するのが精一杯で考えながら試合を出来ない点。北海道での試合数を増やし、苦しい試合を多く経験出来るとういと思う。

(小樽潮陵高校 監督 井筒 健三)

全国高校総体 大分

男子 個人戦シングルス 優勝 神和住 純 (法政大学第二)  
準優勝 坂井 利郎 (成城学園)